

第一中学校区における市立小中学校の 適正配置等に関する懇談会

報告書



交野市教育委員会

平成30年3月

懇談会開催の経緯

市教育委員会では、すべての市立小中学校を対象として、「今後における市立小学校及び中学校の適正規模及び適正配置の在り方」を学校教育審議会へ諮問し、審議していただいております。平成29年1月には中間答申を受けて「学校規模適正化基本方針」を作成しました。

現在、第一中学校区の学校は、本市でも比較的建築後の年数が経過した校舎があることや、「学校規模適正化基本方針」に定められた適正な学校規模を下回る、小規模状態の学校があるなど、喫緊の課題を抱えています。

また、変化の激しい社会に対応できる力を身につけるために、交野市でも小中一貫教育をすすめていくことになり、中でも、第一中学校区は交野市における小中一貫教育のモデル校区になっています。

学校教育審議会からの最終的な答申に向けて、第一中学校区の各学校に関係のある保護者の方々や、地域の方々が、現在、そしてこれからの第一中学校区の学校の在り方について、審議を深めていただくことは大変重要になるため、保護者や地域の意見を聞く場として懇談会を開催しました。

《懇談会の参加者構成》

交野市PTA協議会	10名	区長会（一中校区の区長）	6名
学校評議員	3名	子ども会育成連絡協議会	1名
青少年指導員	1名	校区福祉委員	2名
民生委員児童委員・主任児童委員	2名	市民公募	7名

合計32名

開催概要

将来にわたって、第一中学校区の子どもたちの良好な教育環境を確保し、学校教育の充実を図るための意見交換をワークショップ形式で行い、小中一貫教育や、すでに小中一貫教育をすすめている、近年建設された学校施設と既存の学校施設の違いについての理解を深め、学校教育審議会で作成された学校適正配置案をもとに、第一中学校区の学校配置等を検討しました。

なお、ワークショップは、参加者の年齢、性別、校区等を考慮し、6班に分かれて行い、ファシリテーターとして、兵庫県立大学 准教授 竹内 和雄 先生をお招きしました。

第1回懇談会

日 時：平成29年12月6日（水）19時～21時

場 所：交野市役所 別館 3階 中会議室

参加者：31名

案 件：1. 第一中学校区の現状と課題（学校規模適正化室）

2. 小中一貫教育について（学校教育部指導課）

3. これからの第一中学校区の在り方（交野小学校・長宝寺小学校・第一中学校）

4. 第一中学校区の適正配置（案）の紹介（学校規模適正化室）

概 要：第一中学校区の現状と課題や小中一貫教育について説明し、第一中学校区での小中一貫教育の取組を各学校の先生方からお話いただきました。ワークショップは、「小中一貫教育に対する期待と課題」をテーマとして、意見交換を行いました。（資料1）

先進事例施設見学

日 時：平成30年1月5日（金）

見学先：①宇治黄檗学園（宇治市立宇治小学校・宇治市立黄檗中学校）【施設一体型小中一貫校】

②京都市立京都御池中学校【施設分離型小中一貫校・複合型学校施設】

参加者：15名

概 要：小中一貫教育をすすめている、近年建設された学校施設と既存の学校施設の違いについて、見識を深めていただきました。また、先進事例施設見学時にはアンケートもとらせていただきました。（資料2）

第2回懇談会

日 時：平成30年1月16日（火）19時～21時

場 所：交野市役所 別館 3階 中会議室

参加者：27名

案 件：1. 先進事例施設見学について
2. 第一中学校区の適正配置について

概 要：「校区変更案」4つ、「学校統合案」4つ、「小中学校統合案」3つ、合計11の学校配置案すべてを検討しながら、各方策からひとつずつ、望ましいと考えられる学校配置について議論しました。（資料3）

第一中学校区 学校施設見学

日 時：平成30年1月30日（火）

見学先：①第一中学校

②交野小学校

参加者：6名

概 要：懇談会参加者から、第一中学校区の学校施設の現状を知りたいとの意見があり、見学を希望する学校を参加者と調整し、学校施設見学を行いました。各学校の校長先生方に、学校施設を案内していただきながら、現状と課題を説明していただきました。

第3回懇談会

日 時：平成30年2月6日（火）19時～21時

場 所：交野市立青年の家 2階 201号室

参加者：22名

案 件：第一中学校区の適正配置について

概 要：第2回懇談会のワークショップを踏まえて、各班で検討した複数の学校配置案の中から、より望ましいと考えられる学校配置を検討しました。（資料4）

第4回懇談会

日 時：平成30年3月2日（金）19時～20時半

場 所：交野市役所 別館 3階 中会議室

参加者：25名

案 件：第一中学校区における市立小中学校の適正配置等に関する懇談会の
まとめについて

概 要：第一中学校区の学校の配置について、これまでの懇談会で出された意見や検討内容をまとめました。

第一中学校区における学校適正配置案

学校適正配置の方策は「校区変更」、「学校統合」、「小中学校統合」が考えられます。

学校教育審議会では全中学校区について学校適正配置案が検討されており、第一中学校区においては、「校区変更案」が4つ、「学校統合案」が4つ、「小中学校統合案」が3つ、合計11の学校配置案があります。

校区変更案 ※斜線部分が校区変更箇所 ※校区変更範囲は一例



私部西地域(交小校区)を長小校区へ



松塚地区(郡小校区)を長小校区へ



長小周辺の一部(郡小校区)を長小校区へ

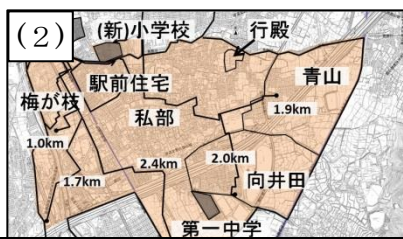


私部西地域(交小校区)、私部3・6丁目を長小校区へ

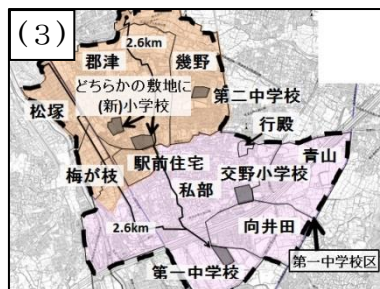
学校統合案(4案) ※小学校どうしの統合



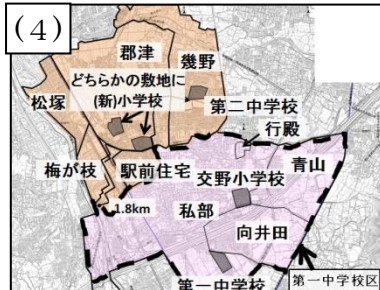
長小と交小を統合。交小敷地に(新)小学校を設置



長小と交小を統合。長小敷地に(新)小学校を設置



長小と郡小を統合し、(新)小学校は一中校区とする。



長小と郡小を統合し、(新)小学校は二中校区とする。

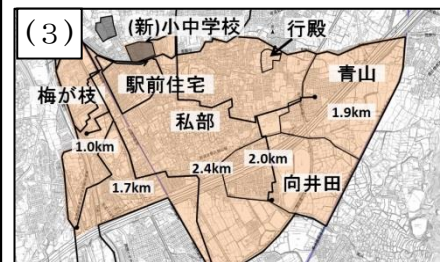
小中学校統合案(3案) ※小中学校を同一敷地に設置



一中敷地に(新)小中学校を設置



交小敷地に(新)小中学校を設置



長小敷地に(新)小中学校を設置

現状の学校配置



学校配置についての意見集約

第2回、第3回の懇談会では、各配置案のメリット・デメリットを議論しながら、より望ましいと考える学校配置案を班ごとに検討し、発表しました。

①小中学校統合案

小中学校統合案は、交野小学校・長宝寺小学校・第一中学校を施設一体型小中一貫校とする学校配置案であり、6班すべてから望ましい学校配置ではないか、という意見が挙げられました。

施設一体型小中一貫校の設置場所については、交野小学校敷地とする小中学校統合案（2）が最も望ましいのではないか、という意見の班が5つ、第一中学校敷地とする小中学校統合案（1）が最も望ましいのではないか、という意見の班が1つとなりました。

【小中学校統合案にかかる意見】

- ・小中一貫教育の推進の観点からは、児童生徒や小中学校の教職員が同一敷地にいる方がよい。
- ・小中学校の教員が児童生徒の情報を共有ができる。
- ・小中学校の教職員の交流ができる。
- ・先進事例施設見学から、施設一体型小中一貫校では、小中一貫教育が目に見えてわかりやすく、一つの施設で小中一貫教育がされるべきだ。
- ・学校施設の維持費も軽減できるのではないかな。
- ・施設一体型小中一貫校を設置するなら、交野小学校の敷地の広さを鑑みて、交野小学校敷地だと思う。

小中学校統合案（2）については、学校施設整備を行う際の考慮すべき点についても、意見が挙げられました。

【小中学校統合案（2）にかかる意見】

- ・私部公園やいきいきランドの活用も考えるなど、グラウンドやプールは小中学校別々に確保してほしい。
- ・第一中学校のグラウンドを残して、クラブ活動で利用するなど検討してほしい。
- ・広い方がいいので、交野小学校敷地にまとめて、第一中学校敷地はグラウンドとして利用するなど、グラウンドを確保してほしい。
- ・第一中学校のグラウンドを残すことで、50年後建て替えになった場合に相互に利用できる。
- ・私部公園やいきいきランドの利用は大きなメリットだが、学校の専用ではない。
- ・児童生徒の通学時の安全確保のため、交野小学校周辺道路の歩道整備が必要。
- ・防災の観点から、長宝寺小学校のグラウンドや体育館を残して、災害時に備えるようにする。

②学校統合案

学校統合案については、学校統合案（１）が望ましい学校配置ではないか、という意見が挙げられました。

【学校統合案（１）にかかる意見】

- ・交野小学校敷地は、学校統合後の校区の真ん中にあり、通学の中心になる。
- ・交野小学校敷地は、第一中学校敷地、長宝寺小学校敷地に比べて広い。
- ・立地的に、近隣施設の活用も考えられる。

③校区変更案

校区変更案については、校区変更案（４）が望ましい学校配置ではないか、という意見がある一方で、課題が大きいのではないか、という意見も挙げられました。

【校区変更案にかかる意見】

- ・校区変更案（４）は、地域性の問題はあっても、児童数的にはバランスがとれているのでは。
- ・コミュニティを崩してまでする必要はない。
- ・地域を分断してしまうのは大きな問題。
- ・児童数的に適正規模を確保できないだろう。

④現状維持

学校の配置は、３つの学校がある現状が最も望ましいと考えられるが、学校規模の適正化がやむを得ない場合には、校区変更や学校統合で対応することが望ましいのではないか、という意見が挙げられました。

【現状維持にかかる意見】

- ・小学校については、小規模ということがメリットとしてある。
- ・やむを得ない場合は、校区変更で対応すべきであり、校区変更案（３）と（４）の折衷案が望ましいのではないか。
- ・やむを得ない場合は、学校統合をする場合でも、小学校どうしの統合が望ましいのではないか。

⑤学校配置以外の意見

学校配置を検討するにあたり、学校配置に関連する意見が挙げられました。

【学校配置に関連する意見】

- ・「学校教員の働き方改革」に関して、学校運営協議会等の必要性なども検討していく可能性がある中で、学校運営において、現在の学校関係者以外の担い手との連携も確保した施設が必要だ。
- ・将来を見据えた総合的な施設も考えて予算配分してほしい。
- ・先進事例施設見学に行かれた方の話を聞いて、地域の方との協力がとても理想だと思ったが、学校の配置や運営については、共感を得られなければ難しい。

⑥第3回懇談会以降、別途懇談会へいただいた意見

参加者の一部の方から、第3回懇談会以降にご意見をいただきましたので、第4回懇談会において、全員で共有しました。

【第3回懇談会以降の意見】

- ・教員の目がいつも届く小規模な学校での教育が一番必要な教育であり、学校の適正配置は、学校に関わる住民と地域に主眼を置くべき。
- ・小中一貫教育だから施設一体型小中一貫校が良いという判断は、非常に短絡的ではないか。
- ・施設一体型小中一貫校には、マイナス面での指摘もある。

懇談会における、学校配置についての意見のまとめ

第一中学校区における学校の配置については、交野小学校・長宝寺小学校・第一中学校を統合して、施設一体型の小中一貫校とする小中学校統合案が望ましいとの意見が、6つの班すべてから出されました。施設一体型小中一貫校の設置場所については、交野小学校敷地が望ましいと考える班が5つ、第一中学校敷地が望ましいと考える班が1つとなりました。

施設一体型小中一貫校については、児童生徒や小中学校の教職員が同一敷地にいる方が、小中一貫教育を進める観点からも望ましいのではないか、との意見や、グラウンドやプールを小中学校別々に確保すべきではないか、という意見が多く挙げられました。施設一体型小中一貫校を交野小学校敷地に設置する場合には、「私部公園やいきいきランド等の近隣施設の活用」や、「第一中学校の敷地の活用」といったグラウンド面積の確保を望む意見が多く挙げられました。また、小中学校統合後にも、学校のグラウンドや体育館は防災拠点として残す必要があるのではないか、という防災についての意見も挙げられました。

上記以外には、小学校については小規模ということがメリットであり、現状維持が望ましく、学校規模の適正化がやむを得ない場合には、校区変更で対応すべきである、という意見や、小学校どうしの統合とすべきである、との意見も挙げられました。

第1回 第一中学校区における市立小中学校の適正配置等に関する懇談会
ワークショップ テーマ《小中一貫教育に対する期待と課題》

A班

カテゴリ	意見
人生イロイロ	高齢者への思いやり
	人生の選択
	地域と学校が交流できる場となってほしい
	社会に適応できる力をつける
	社会に役立つ子ども
	地域を愛せる子
	適応能力を
	感謝の気持ちを忘れない
	長いものには時々まかれろ
	夢を持った子ども
	人にやさしい子ども
	常に前向きに
	未来に希望を持って頑張れる子
	あきらめない
	誰とでも交流できる子
	小さいことは気にするな
	空気の読める大人
スクスク	上下の付き合い方を早期に学べる
	子供達の成長
	校舎の建てかえ費
	時期
	中学に入る前に部活動を体験できる
	思いやりのある子ども
	後輩の成長
	後輩への指導
	1年生への配慮
	子ども同士で活動できる場(クラブや地域ボランティア)
ソワソワ	先生の忙しさUP
	中学生の負担拡大
	通学中のリスク拡大
	各学校のアイデンティティの維持困難
	クラブ活動のグラウンドの使い方
	集団になじめない子への配慮
	合施設の場合のチャイムの鳴らし方
	通学路の距離等
	トイレの問題
	小から中へ行く時の期待感の薄れ
ウキウキ	少人数学級への期待の方が大きい
	語学の習得
	世界の友人との接触
	友人たちの期待
	友人の増加
	交友が増える
	自分の事は自分で考えられる子
	友だちを大切に
	一人で悩まないように
	お互いを思いやれる子
	学級数の増
	社交性UP
ワクワク	人とのつながり大切だが個人の大切さも
	高校進学
	両親への期待
	母親への期待
	周りの期待
	将来の期待
	自分の成長

B班

カテゴリ	意見
学力	自分の得意分野の向上
	自己実現
	地球環境を考える力をつけておく
	パソコンがあやつれる
	英会話ができる
	基礎学力がついている
	専門的知識に目覚める
	英語が活用できる能力
	考える力
人間関係	両親を大事にする
	身近に指導できる下級生がいる→弱い子(弱者)を助ける優しい心
	人を敬う心
	心の友
	忍耐力
	相談できる相手がたくさんいる
	友人関係の多様性(多くの多様な友人ができる)
	友情がわかる
	仲の良い友だちが増える
	みんな仲良く卒業できる
	いじめ・不登校なく中3迎える
	いじめにあった時に逃げ道
	人にやさしくなれる(小さい子どもが近くにいと)
	周りの人の事も考える立場に立っている
成長	大人とあいさつができる(自主的)
	クラブ活動の多様性(様々な種類のクラブ活動があり選択の自由がある)
	社会に出た時の多様性
	小中双方の教員によるクラブ活動の顧問
	人間成長
	長い間同じクラブに入れる
	規律が守れる
	身近に目標とする上級生がいる→高い目標を持てる
	先輩を見て成長する
	上下関係の在り方
	早熟な子ども、成長の早い子どもは上の学年と混ぜることも可とする
	健康維持
	相手を思う心
	人格形成
	指導育成
	生きる自信を持った中3に
	能力の成長
	コミュニケーションができる
	リーダー性のある子
ひとりごと	小中一貫教育だからでなく、教育上共通の問題だろう
	制服がなくなるといい
課題	体格差の大きい中学生と小学低学年が同じグラウンドを共有すると危険 ⇒校庭を分ける
	小中一貫校では、小5～6年生の最上級生としての自信が育たない

C班

カテゴリ	意見
人間形成	誰とでも挨拶ができる子
	自分の意見が言える子になってほしい
	ごめんなさいが言える子
	夢中になれることが1つ以上ある(例えばスポーツ、勉強など)
	勉強(学ぶこと)知ることの楽しさを知ってほしい
整備	学校でももっとネット環境をよくしてほしい
連携	小中の先生方が同じ思いで9年間過ごせることで教育の質が上がる
コミュニケーション	悩みも相談できる環境が生まれる
	小中一貫になることで中学とはどんな所か小学生がわかりやすくなる
	なると共に目標ができやすくなる
	中学に入学した時のイメージがわく
	小学生の集団登校を中学生が引率することで犯罪が減少するのでは
	教師の人数が増えることでクラブなども増える
	部活が増える
	お互いを見つめあうことで向上心がうまれるのでは
	他学年の方と接することでコミュニケーションがとれる
	中学の先輩との交流ができる
	部活が一緒にできる
	小6生としての責任感が乏しくなる
課題 (課題解消?)	大きい子が小さい子にやさしく接し、小さい子が大きい子を頼れる、縦の人間関係ができる
	中学生に勉強を教えてもらえる
	クラス替えがある
	単クラスにならないことでクラス替えができるのでいじめに対応できるようになる

D班

カテゴリ	意見
思いやり	先輩、年上としての行動ができる
	キズナが深まる
	仲間が増える
	あいさつ
	人の役に立つ
	意識が変わる
	友だち
	年齢に関係なく仲良くなれる
	コミュニケーションが取れる
	思いやり
	後輩を思いやる
人間関係	強いチームワークができる
	人間関係がたくさん学べる(上下関係他)
	上下関係がわかる
	人間関係の充実
	ルールが守れる
	社会に役立つ
	小中の交流
課題	PTA会費、給食費はどうなる？
	先生の時間配分
	1校にするの？
	廃校？
	PTAの親の負担
	中学生の悪いことを小学生がマネする
学校の事	小中の親の交流
	教師の育成
	部活が他市より早く始められる
	部活の活性
	小中の先生の情報交換
その他	フェスタの規模が大きくなり楽しくなる
	学力の向上
	将来交野に戻ってくる人が増えそう

E班

カテゴリ	意見
適応能力	考える力
	バランス感覚のある子に
	善悪の判断力
	変化に対応できる子に
	メンタルを強く
	応用力のある子
	心が元気に
	社会への適応能力の不足
クラブ活動	色々なクラブ活動選択できる
	部活動の充実
人への思いやり	人への感謝の気持ちを持つ
	人を思いやる力をつける
	他者の違いを認める
	良い人間関係づくり
	思いやりを
	自分との違いも認められる心
向上心	英語が話せる力をつける
	学びへの意欲
人とのコミュニケーション	言語力(国語力)
	正しい言葉づかい
	細かい情報交換
	小中の先生同士のコミュニケーション
	学年ごとのコミュニケーション
	コミュニケーション力
	コミュニケーション力
	人とのコミュニケーション力
	親もコミュニケーション
	周りの意見を聞く力
	コミュニケーション力をつける
自立心	自律心がある
	自立できる力をつける
	金銭感覚を身につける
	自覚
	夢を語れる
課題	忍耐力が不足している
	教師の質
	指導力をつける
	PTA活動の活性化
	小中一体型の校舎を期待
	学校と家庭の連携
	9年間同じ学校(一体型のとき)は長い
	6年生の卒業式がなくなる

F班

カテゴリ	意見
交流	話すことができる力
	修学旅行報告会
	クラブ交流
	掃除交流
	登校を一緒に
	給食を一緒に食べる日
	運動会両方参加(別の日)
	校長交換日を作る
	先生交換(日にち限定)
	遠足交流
	40年前、ある先生が「教師と子供は友達関係でありたい」といったのが、今も残っていますが、それが原因かも
コミュニケーション	共通の遊びをする
	地域と共同です ex. 楽団やクラブ等
	コミュニケーション力
	世代間ができるような学校
	社会に適合する力
	社会に適応できる教育
	目を見ることができる力
豊かな心	うやまう力
	人の痛みがわかる子
	人を助けられる教育
	礼儀正しい人になれる
	常に相手の事を考えながら行動するような子どもに
	思いやりの心を養うように
	いじめがなくなるような学校になってほしい
	心と体が一致できる教育
指導	成長が望める
	地域の専門家の話(呼ぶ)
	自分の専門分野を教える
課題	「なんでも相談室」を設ける
	逆に過保護にならないか
	大人がもっと子どもたちのことに目を向けてほしい
	あいさつができる
社会性	悪い影響を受ける
	先生方と子どもの位置関係を見直してほしい
	先生の言葉づかい・親の言葉づかいが気になります
	世界に通じる力
	未来を作る力
自立	AIと争える
	親(友人)を大切にできる子
	将来の夢を語り合う
	なりたい自分が見つけられる
	自立した子ども
	自立する力
	自分を得る力
	思ったことを言える教育
	何かを誇りに思う力
	何かを愛する力
	やさしい人になる
	応用力の利く教育

(1) 宇治黄檗学園(施設一体型小中一貫校)の印象や良かった点・課題と感じた点、感想などをご記入ください。

分類	内容
施設	教室の明るさがよかったです。
	校舎内にゆとり空間が多くあり、児童・生徒に気持ちのゆとりも生まれる。
	災害時の避難所としても、安全性を感じた。
	廊下などに座るスペースがあったり、木製を取り入れていて、ほっとできるスペースが多い点は、とてもよいと感じました。
	校舎の構造が迷子になりやすいと思いました。
	第一印象は、大きな窓に囲まれて明るい、と感じました。(一中とは大違い！！)
	曲線も多く開放的で、気持ちも和らぎそうと思いました。
	施設が新しく、私学のような感じがした。
	設計やデザインの随所に創意工夫があり、従来の画一的無味乾燥な学校施設とは異なり、合理的かつ機知に富んだ施設。 交野市の学校の施設設計の際に大いに見習うべき。
	傾斜地という立地条件を逆手に取り、地下空間利用など立体的な設計だった。 地下水利用など、省エネにも創意工夫が見られた。
	素晴らしかった。グラウンドが広かったらなおいいのにと感じました。
	でも、ゴミ、ほこりがすごかったのがやっぱり目にとまってしまいました。
	子供ができない所 業者の方が入るなり PTAでなんとかするなり出来たらなおいいのにと感じました。
	プールも狭いなりに工夫されての屋上だったのかもしれませんが…せまいし、中学生は、カリキュラムにも入ってませんでしたし、そこは、あんまりでした。
	1～6年生が1つのプールって言うのも成長の差ですこしむりがあるように思いました。
	支援の教室が少し離れた所のあったのもいいのか悪いのか…別にされている感を少し感じました。
	グラウンド2つ、プール2つは施設一体には必要と思った。
	グラウンドが狭くて児童生徒、地域に十分に使用できない。
	平成32年度の新教育指導要領による施設改修問題(PC導入による電源等の増設等)
	トイレの洋式、和式問題。
	運動場が狭いと思ったが、交野を基準に考えている自分を反省した。 校長先生が「ゆずりあいの精神が育つ」と話されたことは、その通りです。
	他の多くの学校が施設分離型を取り入れている理由(課題と良い点等)を聞く必要がある。
	リーフレットP9に施設分離型が多い理由を宇治市の他校からヒアリングできれば、今後の明確な方針の参考になると思われる。
	小プールは必要。中学生のプール授業がないとのことだが、交野市では割愛してほしくない。
	宇治市での他9中学校で、施設一体校が進んでいなかったのはなぜか？

(1) 宇治黄檗学園(施設一体型小中一貫校)の印象や良かった点・課題と感じた点、感想などをご記入ください。

分類	内容
施設 (一体)	小中職員室(86名)の一体化で先生間での情報の共有化が即時に図れる。
	環境に見合った一貫校で、トータル的な教育ができると感じた。
	新しい学校の建築としては参考になった。
	同じ施設内にいるからこそできる教員の情報共有。これだけ近い距離で情報共有ができるのは、施設一体型の最大のメリットだと思う。
	1～4年生、5～7年生、8、9年生に分かれて各階教室が配置されているのは、児童生徒にとっても良いことだと思います。施設一体型の良いところだと思います。
	中学生からみて小学生が同一施設内にいることは、非行行動も減ると思うし、背伸びして頑張ろうという気持ちも生まれて良い相乗効果になると思う。
	小中が同居している中、いろんな取組工夫がされていると感心しました。
	ただ、敷地が狭いといえど、9学年の教室等がある為、小1の児童は迷ったりしないのか、と思います。
	立地環境が一中校区に類似し、施設一体型小中一貫校の先進事例として適切。
	グラウンドが2つ整備されており、体格差のある児童生徒の接触事故を未然に防止する工夫があった。
	諸条件が似ている成功モデルを見て、一中校区が目指すべきは、施設一体型小中一貫校とすべきと感じた。
	小中一体化して配置した結果、先生の負担や地域住民への不安がぬぐいきれないように感じられた。
	良い面は一体化教育ができる反面、6年生への対応に不安が残る面が身に残される。
	全体の施設そのものに驚いた。積み上げ方式の施設一体型小中一貫校がまだ多くなく、基準見直しの必要性の話はその通りだと思った。
	1～9年生を同じ校舎内で過ごしていく過程に置いては、ストレスが小さくて済みそうに思えます。ただ、刺激が少なく、マンネリ化していかないか少し心配な面があります。
	施設的にも小中学生のグラウンド共有は問題あり。いろいろ分けて考える面が見受けられる。
	小中学生共同利用によるグラウンドの問題。
	児童生徒数、学校の敷地面積とも、将来の一中校区の小中一貫校の姿に近いと考えられるが、グラウンドの狭さは否めなかった。
	放課後に小学生がグラウンドで遊べない。
	施設一体型小中一貫校になぜしなければならないのか、明確とならなかった。
一貫教育	前期、中期、後期という分け方もいいように思いました。
	リーフレット「宇治市の小中一貫教育」P8「本紙小中一貫教育のねらい」の3と7に共感した。
	上級生が下級生の面倒を見たり、下級生は将来の自分の在り方を上級生に投影できたりして、目標が立てやすいのではないかと思います。
	中学校教員が小学校の教科を教えることが教育課程上認められていないこと。
	前期、中期、後期区分の学習方法の効果に明確な根拠が示されていない。

(1) 宇治黄檗学園(施設一体型小中一貫校)の印象や良かった点・課題と感じた点、感想などをご記入ください。

分類	内容
地域	地域の交流の場、機会が他にもっとできないかと思います。 (放課後地域の子たちが運動場を使えないなど、課題があがっていたので。)
	運動場が狭いと思ったが、交野を基準に考えている自分を反省した。 校長先生が「ゆずりあいの精神が育つ」と話されたことは、その通りです。
	地域交流で今後どこまでサポートできるか。少子化対策による学校施設見直しでどこまで有効活用できるか。将来を見据えた施設運用(EV増設等)の問題
その他	中学生が自覚して成長してくれる。
	6年生が同じ学校に通うのに卒業式、入学式をして時間がもったいない。
	児童・生徒の交流(ふれあい)がうまくいっているように思った。
	反対が確かに大きかったけれど、それよりも期待感の方が大きく、PTAと地域の方が一枚岩になり一つの気持ちになってくれたとの話は強く印象に残った。
	応援歌の歌詞「たかく」「すずしく」「たくましく」は素晴らしい。
	校長の思い、職員の思いが大事だと思った。
	設備と教育は分離して考得た方がよいかという印象。
	交野小学校より歴史ある伝統校でも、大胆な改革ができることに感銘を受けた。
	施設実態(一体型)と教育理念(一貫教育)が合致しており、児童生徒、保護者、教員、地域住民のすべてに対してわかりやすく合理的。
	部活の少なさが気になる。
	他校間教員異動による教育指導の進め方での戸惑い。
	教育課程の区分変更による教室配置や施設等の対応問題発生の可能性。
	黄檗学園と他9学校区の比較データが知りたい。

(2) 京都御池中学校(施設分離型小中一貫校・学校施設の複合化)の印象や良かった点、課題と感じた点、感想などをご記入ください。

分類	内容
施設	校舎の工夫としては現状の空きスペースを壁で仕切れば、教室を新たに作り出せる設計の工夫は素晴らしい。
	でも施設自体はとってもきれいでよかったです。
	御池中学校で学ぶ生徒の教育条件で、グランド狭い、7階建、1階は学校に使えないなど、不自由が多くあり、問題を感じた。
	校舎がまっすぐな構造なのでわかりやすいと思いました。
	街の中にあり、一見すると学校とは思えない外見でした。
	運動場の狭さが気の毒。
	人の集中、距離、交通や市場面で問題ないところにあり、いろいろ活用できる面が多い。
	施設設計が旧態依然としており、少し残念に感じた。
	グランドが狭すぎる。
	運動場や校舎が少し狭いと感じた。
	グランドがあまりにも狭小。教育上の支障となっていた。
	施設分離型は各小学校の耐久力が保持されているのが条件なので、交野小学校、長宝寺小学校のように、良好に耐久力がないのは当てはまらず、一体型が良い。
	部活動等は近隣地域を活用してもよいのでは。
	施設分離型特有の課題も多く、一中校区の実情とは相容れない部分が多いと感じた。このことから、一中校区が目指すべきは、施設一体型小中一貫校とすべきと感じた。
施設 (分離)	施設分離型は、小中一貫校としての役割の点で、少し疑問に思う。
	一番多感な時期(6～7年生)を同じ校舎内で過ごすことにより、無理なく上級生への移行が可能となり、ストレスの軽減がなされている、と感じました。学童から学生への転換がスムーズに移行できると思います。
	分離型での一貫教育の苦勞がよくわかった。
施設 (複合)	高齢者や園児と児童生徒の交流、職場体験など、教育にも有効活用されている点も高く評価すべきと感じた。
	保育園や老人施設すべてをいっしょにするのは、やはり少しちがうと思いますし、あの場所だからというのはあるように思いました。
	街中の商業施設との複合化という点は交野市で取り入れるのは難しいと思いますが、保育所や地域活動ができる場を共有できるのはよいのではないかと思います。
	保育所、福祉施設も併設されており、生徒たちとの交流には負担もなく自然に触れ合いができ、地域の交流の場につけてつけの環境だと感じました。
	老人センター、保育所が併設されていて交流や中学生の成長に効果あり。
	複合施設は、児童生徒の成長に効果あり。
	京都市内中心部で、保育所、老人福祉施設、商業施設を複合化している施設はやはり魅力ある。
	地価が高い商業地域内である立地環境を活かした創意工夫(複合化)があり、行政の意欲や努力を感じた。
	複合施設としては利用価値が高まる可能性が高い。 他校を巻き込んだ複合設備や教育等を充実してもよいのでは。

(2) 京都御池中学校(施設分離型小中一貫校・学校施設の複合化)の印象や良かった点、課題と感じた点、感想などをご記入ください。

分類	内容
一貫教育	6年生だけ行く、と言うのは少し複雑に思えました。
	今後5年生ギャップの新たな問題が生じる可能性。
	6年生を一緒にする理由もよくわからない。
	施設実態(分離型)と教育理念(一貫教育)が合致しておらず、5年生までを小学校へ、6年生だけを分離して京都御池中学校に通学される合理的な理由を見いだせなかった。
地域	地域との連携がスムーズにはかれていることが良。交野市でも検討が？
	地域の方々が学校へ来られる機会の多い点が良かったです。
	けやきプロジェクトは興味深く、世代間交流が活発になり、地域とのつながりがより深まることがメリットだと思う。読書好きの子が多いことも納得。
	地域の交流を深めながらの学校運営をされているところは、良いなあと思いました。
	地域住民が教育熱心であり、サポートが他地域と比較してきわだっている。
その他	交野には少しちがうかなと思いました。
	PFIで建設費2/3に抑えられるという話は魅力的。交野市で同様にできたら建設費を抑えられる。
	21世紀を見据え、学校と地域が手を取り合って作った学校を自分たちの街のシンボルと思えるのが素敵だと思います。
	慣れた校舎がなくなることにより、先のことを見据えた決断、難しいこともあったと思います。
	予測に反して生徒数が増えたことの対応は、大変かと察します。
	両校ともに図書館が素晴らしく充実しているのがうらやましいです。
	9年間の児童生徒の成長を追ひ、その成長ぶりに感激した。
	学校側と地域の理解、協力の大切さが良くわかった。
	暖房のないところで、部活をしているのが気になった。
	複合施設や人が集まれる恵まれた場所・環境にあって、交野市の参考にできるかは不明と感じた。
	保護者が特に教育熱心なことにはいいが、高学歴・経済力のある親が多く、恵まれているこどもたちとの温度差を強く感じた。
	交通至便、買い物や通勤等あらゆる面で優れ、今後の児童生徒数の増加が見込まれる可能性。
	都市部であり、交野市の問題としてあまり参考にならないのではないかな。
	高所得者は教育熱心であるが故、設備や教育内容が充実し、都市中心部特有の実情が鑑みられる。
	地域住民が一体化して共生し、教育環境はよいが、お金のかかる高レベル地域の印象。
	都市部にあり、一中校区の環境との乖離が大きく、参考は限定的。問題点を逆説的に参考とするには有益だった。

(3) その他、感じたことなどをご自由にご記入ください。
(一中校区の今後の学校施設についてなど)

分類	内容
施設	狭いスペースに大きい子と小さい子がいるとけが等の心配もあるが、いろんな人がいることを身をもって体験することが大切だと思う。事故につながらない細心の配慮は必要だが、何もかも守られた中では得られないものもたくさんある。
	小中校舎の長寿命化推進の補助制度のことと、職員の勤務時間(役割分担)の問題もあり、新設も含め、検討。
	ベランダがつながっていること、図書室が立派だったことに感心した。
	「ボランティアルーム」は地域のボランティアあるいは大学生等との交流を図っているのか？
	一体型と併用型の良い部分と悪い部分が交野市の小中一貫教育を考えていくうえで、参考となる面を引き出すことが必要。その地域にあったものを取り入れていくべきだと感じる。
	想定人数以上の児童生徒数になったときに対応できるよう、外に出せるものは最初から出した方がいいと思う。プールはいきいき使用し、第2グラウンドを一中跡地にするなどし、運動会はいきいきグラウンド使用するなど。
	中一問題については、小中の橋渡しできる仕組みがあれば、一体型であれ、分離型であれ、問題はなくなる反面、困難な点があり、子どもを主体に置いた考え方を取るべき。
施設 (一体)	一中校区で小中一貫校を整備する場合、一中敷地では狭すぎ、交小敷地でも旧給食センター敷地を取り込んで狭さは否めない。
	敷地狭小を解消するには、施設階数を増やし、運動場等の面積確保に努めるべき。
	適正配置(案)の小中学校統合案(1)が望ましいと現時点では思っている。見学でよく理解できた。
	一中敷地で施設一体型小中一貫校を整備するなら、隣接する私部グラウンドを取り込み、代替地を長小、交小跡地にするなどの施策が必要。
	単純に数字で割り切ることはできない。一中校区の現状を考え、小中一貫教育の推進の観点からみれば、同一敷地(第一中学校内)に位置づけるのがいいのではないかと推測する。
	既存校舎を改修して使った方がいいという意見もあると思いますが、せっかくお金をかけるなら施設一体型の一貫教育校になるのが、子どもたちの今後にとっていいかと思います。
	一体型は交小もしくは一中敷地でできるかと思います。
	第一中学校内に小中一貫校を整備する場合、学校東側の公園敷地の転用を検討。
	一体型、分離型には長短あるが、一中校区は各小学校の耐久力がないため、一体型にして保育所、幼稚園、老人施設を併設。加えて店舗や会社、役所等も含む複合施設とする。
施設 (分離)	分離型は学校間の距離があり、難しいと思います。
一貫教育	教育そのものはプロである教師に負担をかけるが、期待したい。
	見学して、一貫教育のよさが理解できた。
地域	学校は保守的なイメージが強かったが、これからは開かれていかないとダメだと感じた。
	家庭・地域の大人が未来ある子どもたちのために精神面で支えていくことができればと思っているが、地域・保護者の意識がどの程度なのかが一番の課題。

(3) その他、感じたことなどをご自由にご記入ください。
(一中校区の今後の学校施設についてなど)

分類	内容
地域	地域・保護者の意識を少しでも高めてもらうために、市・教育委員会が強い姿勢でPTAや地域に働きかけてほしい。同時進行でPTAや地域が自然に盛り上がって心が一つになることを願って取り組みを努力したいと思う。
	これからは40～50代の人を育ててほしいが、この年代は無気力無関心さが目立つ。「この人は」という人物が周りにいればぜひ育ててほしい。親世代の教育が大切になる。リーダーを見つけることと教育の平均値を高めることが必要。
	小中学生に加えて地域にもグラウンドを開放できるようにし、定期的に地域の会合をしていただいたり、学校運営にも携わっていただけたらと思う。
その他	児童・生徒数の減少傾向、全施設の老朽化による改修時期の集中、予算不足など、現状維持を是として何ら有効な手段を講じず、事態が切迫化するのを座して待つよりこの機会を好機と捉え、小中一貫教育への転換と学校の統廃合、学校施設の改修を同時に進めることは、宇治黄檗学園や京都御池中学校の先進事例を見て、大変有意義であると改めて感じた。
	百聞は一見にしかず。自分の考えの視野が広がったように思うが、実現に向けての課題が未だに見えてこないのが正直の気持ちである。
	2パターンの学校を見せていただき、一中校区とのあまりの差に具体的なこととしてまだイメージがわからない。
	どちらの校長先生も「地域の方と…」という言葉が何度も出てきて印象的だった。
	施設は見れたが、普段の子どもたちの様子(動線等)も見てみたかった。教室以外のスペースでの過ごし方や休み時間の様子など。
	自由にもっと学校へ足を運べる場所が学校(の中に)できれば、日常的に生徒、児童たちとが交流できる時間が自然にできると思うのですが…
	特に京都御池中学校では、校区内に引っ越してくるなどの社会現象も出現しており、これが社会的な評価であるともいえる。
	百聞は一見にしかず。今後の一中校区の問題解決を考えるうえで、大変有意義だった。
	中教審による教員の役割分担について、来年度にも数値目標がでる見通しも考慮し、学校以外が担うと想定される担い手との連携も考慮した新施設建設との併用で、解決策を掘り下げて検討する。
	大人の意見も大事だが、子どもたちからも「望む学校像」を聞き取りして参考にするのもいいと思います。
	大切なのは子どもの基本的な生活習慣。自然な家庭が大切。
	両校とも大変伝統文化を大切にし、福祉新聞があり、とても共感した。
	地域施設も取り入れた学校施設はできないか。
	我が交野(1中校区)の学校施設をよく(細かく)見ていないので、比較のしようがなかった。新旧のみしかわからない。
	交野の良さが発揮できる方式を考えたい(田舎の良さ)
	一中校区外からの意見収集。今後を見据えて他校区の方からも施設見学に参加いただき、他校区との連携を意識した意見等の収集もできれば、多面的に考えられるのではないかな。
	両校とも高さ調節式の机と椅子が使用され、合理的と感じた。交野市も今後導入検討してみてもいいかな？

第2回 第一中学校区における市立小中学校の適正配置等に関する懇談会 ワークショップ

(資料3)

班	A	B	C	D	E	F
検討方法	「校区変更案」「学校統合案」「小中学校統合案」ごとに票を入れ、検討する。 望ましいと考える配置案がない場合は票を入れなくてもよい。	すべての配置案の中から、望ましいと考える案に票を入れ、検討する。	「校区変更案」「学校統合案」「小中学校統合案」ごとに、望ましいと考える案を、「○」「×」で評価して検討する。	すべての配置案の中から、望ましいと考える配置案を、「◎」「○」「×」で評価して検討する。	「校区変更案」「学校統合案」「小中学校統合案」ごとに、望ましいと考える案があれば、検討する。	すべての配置案の中から、望ましいと考える案を検討する。
各班が選んだ望ましいと考える配置案	(1)・・・1名 (3)・(4)の折衷案・・・1名	(4)・・・1名	×	×	×	(4)○
校区変更案 (1)～(4)		【校区変更案(4)について】 ・地域を分断してしまうのは大きな問題。 ・現状の小中学校区を区切ることは問題。	【校区変更案について】 ・切り取りを重ねても、抜本的な問題解決にならない。 ・校舎の老朽化については解決しない。 ^{※1}	【校区変更案について】 ・コミュニティを崩してまでする必要はない。 ・校区変更では施設老朽化をクリアできない。 ^{※1}	【校区変更案について】 ・児童数的に長宝寺小学校の適正規模を確保できないだろう。 ^{※2} ・現在郡津小学校校区の松塚地区や長宝寺小学校周辺の一部を校区変更しても児童生徒数の確保が厳しいなら、考える必要がないのでは。	【校区変更案(4)について】 ・地域性の問題はあっても、児童数的にはバランスがとれているのでは。
各班が選んだ望ましいと考える配置案	(1)・・・3名、(4)・・・1名	なし	(1)○(2)×(3)×(4)×	(1)○(2)×(3)×(4)×	(1)	(1)
学校統合案 (1)～(4)			【学校統合案(1)について】 ・交小敷地が広いので、交小敷地に新小学校を設置するのが良いだろう。 ・立地的に、近隣施設の活用も考えられる。 ・学校統合案の場合、敷地の広い交小をメインに考えた。	【学校統合案(1)について】 ・交小と長小の学校統合は可能性があるかな、と思う。	【学校統合案(1)について】 ・学校統合後の校区の真ん中に近い。学校統合案(2)では、小学生の通学距離が2kmを超えところもあり、1年生が通う距離で2km以上は遠い。最長1.9kmが限度だと思う。交通事故等のことも考えると厳しい。	【学校統合案(1)について】 ・現在の交小の位置は、学校統合後の校区の真ん中で通学の中心になることから、良いだろう。
各班が選んだ望ましいと考える配置案	(2)・・・5名	(2)・・・4名	(1)×(2)○(3)×	(1)◎(2)◎(3)×	(2)	(2)◎
小中学校統合案 (1)～(3)					【小中学校統合案について】 ・小中学校統合は、お金の問題もあり、費用的に安くあがるだろうが、実際にやった時に校舎が大きくなると小学生が迷子になる可能性も。	【小中学校統合案(2)について】 ・小中学校統合は交小敷地と一中敷地で話が分かれた。交小の広さを鑑みて、イチからスタートするなら交小敷地だと思う。
コメント等	【小中学校統合案(2)について】 ・必ず適正な運動場面積を確保することが重要。 ・一中の校庭を置いておき、グラウンド利用できるようにする。 ・プールも小中別々に2つ必要だろう。 ・一中校区だけでなく、全中学校区一斉に工事に入ればいい。 ・将来を見据えた総合的な施設も考えて予算配分してほしい。	【小中学校統合案(2)について】 ・問題は敷地の狭さ。近隣施設の利用は大きなメリットだが、いきいきランド(総合体育施設)があるといっても、学校の専用ではない。 ・交小敷地に施設一体型小中一貫校を設置するなら、一中の敷地を残して小学校高学年以上のグラウンドとして利用し、低学年は、現在の交野小学校の敷地を利用できると良い。 ・宇治黄檗学園の施設一体型は小中一貫教育が目に見えてわかりやすかった。 京都御池中学校の施設分離型は、小中一貫教育が分かりにくく、一つの施設で小中一貫教育がされるべき。また、6年生だけが中学校の校舎で学ぶことも、小中一貫教育がわかりにくい。	【学校統合案(1)、小中学校統合案(2)について】 ・先進事例施設見学時も、グラウンドの広さが重要との話が多かった。	【小中学校統合案(2)について】 ・小中学校統合案(1)と比較した場合、どちらにしても広い方がいいので、交小敷地に施設一体型小中一貫校を設置し、一中敷地はグラウンドとして利用するなど、グラウンドを確保してほしい。	【小中学校統合案(2)について】 ・体育施設、少なくともグラウンド・プールを小中分けての確保をしてほしい。	【小中学校統合案(1)について】 ・一中は小さいけれど、私部公園も使用できる。 【その他のご意見】 ・施設見学に行かれた方の話を聞いて、地域の方との協力がとても理想だと思ったが、学校の配置や運営については、共感を得られなければ難しい。

下記の2点については、事務局より説明がありました。
※1 どのような学校配置の場合でも、児童生徒の安心安全な学習環境の確保のため、大規模改造や長寿命化改修・建て替えなど、必ず何らかの対策が必要になります。
※2 校区変更案(4)は校区変更案の中でも、平成52年度まで適正規模を維持する可能性が高い案になっています。

第3回 第一中学校区における市立小中学校の適正配置等に関する懇談会 ワークショップ

(資料4)

班	A	B	C	D	E	F
各班が選んだ望ましいと考える配置案	小中学校統合案(2)	小中学校統合案(2)	小中学校統合案(2)	小中学校統合案(1)	小中学校統合案(2)	小中学校統合案(2)
	校区変更案(3)+(4)	校区変更案(現状維持)				
望ましいと考える配置案を選んだ理由	【小中学校統合案(2)について】 相対的には、小中学校統合案(2)が最も現実性がある。 メリット ・経費面 ・小中一貫教育を実施しやすい。 【校区変更案(3)+(4)について】 (現状維持を前提とする) ・小学校については、小規模ということがメリットにある。3つの学校を残して、やむを得ない場合は、校区変更をしてほしい。	【小中学校統合案(2)について】 4名中3名が望ましいと考える。 【校区変更案について】 4名中1名が望ましいと考える。 (現状維持を前提とする) もし、小中学校統合案(2)と現状維持でなく、両方の間をとるなら、学校統合案(1)になるだろうが、双方の主張は譲らず。	・一中、長小に比べて敷地が広い ・経費面 特に教員の人件費。例えば2学級と2学級の学年を足した場合に、4学級ではなく3学級になることによって、そのまますべての教員数を単純に足すだけでなく、減らすことができるだろう。 施設維持費も軽減できるはず。施設数が1つになることで、長小と一中の施設維持にかからなくなる経費を、今後他の面で活かせる。 ・現在の交野小学校の位置は、私部公園やいきいきランドに近い。	メリット ・児童生徒の連帯感が深まる。 ・教員が児童生徒の情報共有をしやすくなる。 ・小中一貫教育の推進の観点からは、同一敷地にいる方が良い。 ・現在の第一中学校の位置は、小中学校統合後の校区の中心になっている。	メリット ・小中一貫教育を実施しやすい ・小中学校の教職員の交流ができる。 ・児童生徒が同一空間にいることができ、教職員は同一職員室にすることができる。	・長宝寺小学校のグラウンドや体育館を残して、災害時に備えたようにするなら、施設一体型小中一貫校を交小敷地に設置するのがいいのではないと思う。
課題 (解消案等)	【小中学校統合案(2)について】 ・交小のグラウンドを使用して、校舎を建設。 ・一中のグラウンドを中学生に残す。 ・小中学校のプールも、適正な面積を残す。 ・グラウンドの確保が最低条件。 ・プールも、別々に確保してほしい。 【校区変更案(3)+(4)について】 ・校区変更案については、現状維持を前提とし、小規模校の存在に配慮。 ・校区変更で対応する場合は、長宝寺小学校周辺の一部(郡津小学校区)と私部西地域(交野小学校区)を長宝寺小学校区としてほしい。	【小中学校統合案(2)について】 ・小学生だけ、中学生だけで利用できたグラウンドが、小中学生両方が利用することで半分になるのは、あってはいけない。 ・一中跡地を中学生用グラウンドに。 ・50年後建て替えになった場合、一中の敷地が残っていれば、相互に利用できる。	・小中学校統合後は、一中跡地をグラウンドとして活用してほしい。	デメリット ・敷地の狭さの問題。 ・都市計画法を克服できれば、私部公園を活用して、一中敷地での施設一体型小中一貫校の設置も可能ではないか？ ・他市の例もあり、見込みもあるのでは？	・小学校用と中学校用のグラウンドは必ず別々に設置する。 ・体育は、運動場が近くにないと時間もとられてやりにくいですが、中学校の部活(野球やラグビー)は、私部公園などを利用する。 ・いきいきランドのプールも利用。 ・小中学校統合後に、現在の一中のグラウンドがあげば、運動部の部活で使う。	・A班と同様だが、異なる点として、長宝寺小学校のグラウンドや体育館を残した方が、活用用途があり、必要性もあるのではないか。残せるなら小中学校統合案(2)がよい、という意見になった。
コメント等	【小中学校統合案(2)について】 疑問 ・建設中の児童生徒の所在をどこに確保するか。明確に安全確保してほしい。	【その他のご意見】 ・児童生徒の通学時の安全確保に向けて、今後の交野小学校の敷地面積は、歩道確保分で見込むべき。 ・交小周辺道路の歩道整備。(現状で530m+66m、整備率13.2%しかない。)		【その他のご意見】 ・市内全域で計算すると、学校数を見直す認識が必要だが、一中校区としてそこまではできないのは分かっている。 ・小中一貫教育の教育面まで入ることはできず、地域ができるのはハード面の検討。 ・学校施設の老朽化対策のための長寿命化と、教員の働き方改革も注意すべき。学校運営において、現在の学校関係者以外の担い手との連携も確保した施設が必要。		